

幼稚園・学校番号	1509413
施設名（園名等）	上ノ原幼稚園

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

年長5歳児 きりん組 担任（教諭名）：柴田明日香

1. 活動のテーマ

<テーマ>（タイトル）

木こり体験 「全身で奥多摩の自然を感じて楽しもう！」

テーマの設定理由

日頃から園内の自然物（植物・虫など）に関心を持つ子どもの姿が見られたため、園外の豊かな自然の中で、五感を用い、森林の匂い、木肌の瑞々しさなどを実際に体で感じ、心を動かす体験を獲得することを設定理由とした。

それらの体験を、日頃の園生活にも生かし、遊びの中で木とふれあうことに関心を示し、身の周りに木で作られたものがあることに気づくとともに、当園の理念でもある「キリスト教保育に基づき、ものや人を大切にする心を培うことを目指す。

2. 活動スケジュール（活動の流れ）

1. 奥多摩の森での木こり体験（7月）

- ①森の作られ方の説明を聞く
- ②間伐体験（1本の木を切って森を明るくしよう）
- ③ツリーハウス、かんなくずプール、切り株で遊ぶ

2. 園に持ち帰った木材などでの観察活動および製作活動（9月～12月）

- ①切り株の飾り製作
- ②奥多摩保育後のドキュメンテーション掲示による振り返り

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

・活動のために準備した道具、環境の設定>

- ・奥多摩の自然
- ・木こり体験（木育インストラクターによる指導）
- ・製作のための教材：切り株、ドリル、やすり、ポスカ
- ・奥多摩保育のドキュメンテーション

・活動中の子どもの姿・声、子ども同士や教諭との関わり 等を記載

- ・聞こえる音、見える景色、触った感触など、五官を使って自然を感じている姿があった。
- ・ほとんど経験したことのない大自然に感銘を受け、一つひとつの事柄に感動を覚えた声を発していた。
- ・間伐体験では、木を切ることで森が明るくなることや、のこぎりを引いた時に木が切れるということを理解しながら望んでいた。また、切りたての木は湿っていること、とても良い匂いがすること、舐めてみると甘いことを発見し、「木が活着ている」ことを実感している様子があり、その発見を友だちや保育者と共有していた。
- ・ツリーハウスに登る経験では、手足の力を使って自分の力で登り切り、頂上から見える景色を眺めたり、下にいる友だちや保育者に手を振ったりすることを楽しんでいた。遮るものがなく、遠くまで見通せる自然の景色に感動を覚えていた。また、保育者がやまびこをすると、それを真似てやまびこをする様子があった。
- ・かんなくずプールでは、かんなくずの感触を全身で感じながら、触ったり投げたりして遊んでいた。かんなくずの上で跳んでみるとフカフカと弾力を感じることに、体や服に付くと中々取れないことを発見していた。
- ・奥多摩保育全体を通して、日常では感じることの少ない自然を全身で感じる経験ができていた。福音の家（宿泊施設）では、澄んだ空気の中だからこそ見られる星空を鑑賞したり、物音の少ない環境だからこそよく聞こえる虫の音や心地よい風、自然の匂いを感じ取ったりし、友だち、保育者と分かち合うことができた。総じて、奥多摩の景色・風・匂い・生き物など、様々な自然に囲まれて過ごす中で、子どもたちそれぞれが、自然の恵みを全身で感じ、心地良さとたくさんの気づきを得ている様子であった。
- ・帰園後の保育では、奥多摩から持ち帰ってきた木材に絵を描いて製作を行い、奥多摩での思い出を振り返れるようなドキュメンテーションを保育室に掲示した。製作、掲示を見ることを通して、友だちと一緒に思い出を振り返り、自然の恵みや経験したことのありがたさ、楽しさを感じている様子が見受けられた。

木こり体験の様子



木材での製作活動の様子



4. 振り返り

<振り返りによって得た、教諭の気づき>

- ・日常では感じる事が難しい大自然を、2日間を通して存分に感じ、多くの刺激や発見を得ている子どもたちの姿があった。自然物を拾って、何かに見立て、それを使って遊び始める姿に、子どもたちは遊具がなくても遊びを生み出せるスペシャリストであると感じた。
- ・普段触れ合うことが少ない大自然だからこそ、一つひとつの経験が貴重な時間として子どもたちに積み重なっていると感じた。また、その経験の中で感じた一つひとつの感性を、保育者や職員が受け止め、子どもたちと共有することで、より心に残る経験となっていると感じられた。
- ・日頃から、自然の恵みに感謝する経験を積み重ねている子どもたちだが、この奥多摩の経験を経て、より現実的に自然の美しさや、感謝する必要性を強く感じられたのではないかと思う。